104. 礎石（立脇廃寺）

そせき　たちわきはいじ

■指定日

昭和53年11月7日

■種別

有形文化財　考古資料

■年代

奈良時代

■所在地

朝来市立脇

■所有者

大通院

■内容

大通院の庭石として残されていた、古代寺院の礎石と思われるもの。
「大宝年間に摂津四天王寺の僧が、立脇に来て帝釈天を奉ずる寺を建てた。」という伝承があり、大門等の地名も残っている。また、付近から古代の布目瓦が多数出土し、古代寺院が存在したことが分かる。

地場産の花崗岩（加都石といわれるもの）の巨石で、中央に直径20cm深さ13cmの椀形の穴(舎利穴)が作られている。これと同心円となって径80cmの円周の溝が浅く掘ってある。